
蔵の奥

榛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蔵の奥

【コード】

N9407W

【作者名】

榛

【あらすじ】

「蔵の中」「蔵の外」のつづきです。超短編・会話のみ。

「柚、先行けよ」

「やだよ。祥が赤飯持ってんだから祥が先行きなよ」

「母さんが無理矢理俺に持たせただけだし。ほら、扉開けろって」

「はいはい。あー早くしないと時間が」

「何の時間？」

「逢魔が時」

「そーいうのやめろって。冗談にならん」

「本当は時代劇の再放送」

「え、お前あんなん見てんの？ しつぷー」

「勸善懲悪の時代劇は日本の伝統だ。見て何が悪い」

「悪者倒して印籠突き付けてこの紋所が目に入らぬかーってワンパ
ターン、飽きねえ？」

「飽きんよ。ほら祥、ゴー」

「……行きゃいいんだろ。柚、しっかり照らせよ」

「もち。北の壁って一番奥？」

「そ。階段裏」

「へー。おかがみさま、かあ……聞いたことある？」

「全然。文献でも絵でも見たこともなし」

「だよなあ。局所発生型妖怪とか？」

「なんだそれ。ほら、あそこ」

「あ、あれ。確かに神棚っぽいね」

「置いて帰ればいいんだよな？」

「たぶん。燭台には脇に行ってもらって……ほら、祥」

「これでいつか。じゃ、さっさと出よーぜ」

「だね。婆ちゃんには悪いけど、搜索は延期で」

「お赤飯なんて幾年ぶりでしょうか」

「うわあっ!」

「まあ、そのように魂消ないで下さいな。先刻は私が悪かったのですけれど」

「でっ、でたっ!」

「あの、私の話、聞いてらっしゃいます?」

「狐の面がぶってらっしゃる……」

「男子でしょう、静かになさい。あまり口喧しいと祟りますよ」

「ひえっ」

「あつあの、おかがみさま、ですか?」

「おかがみさま……ああ、久しく呼ばれていなくてすっかり忘れてました。此処の方達はそのように呼ばれますね」

「……えっと、神様、ですか?」

「神なんて大層なものではありませんよ」

「妖怪って祟れるっけ?」

「妖怪ではありませんよ。祟りは口から出任せです」

「……」

「嗚呼、此処のお赤飯はやはり格別ですね」

「……マイ箸で食べてるし」

(後書き)

三題漸として作成したものです。
題：崇り、時間、絵

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9407w/>

蔵の奥

2011年11月1日02時10分発行